婦人と新社會

山田わか主筆

六月號

メレデスの戀愛観

市政と婦人

戀愛と道德

女流樂人の服装

大正九年二月二十三日第三種郵便物認可
昭和三年五月二十三日印刷納本

昭和三年六月一日發行　第九十九號　毎月一回一日發行

東京　婦人と新社會　發行

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

メレデスの戀愛觀

愛はそれ自身地の中に深き根を持つて居る、根が地の中にある時にのみその愛は天國に達することができる。

レッドウオースとダイアナとの愛はこんな愛であつた。彼は彼女の靈魂をしつかりと抱いて居た而してダイアナの靈魂に對するレッドウオースの確信は、彼等二人を正しい一致に導いた。それは地中の根からあの接穗の幹に美しい花を持ち枝の先まで、堅き一體として結合せしめたのだ。こゝに二人の愛の眞實なる理解は生命の美しい淵に澱んで居る。愛といふ語は徒らに口繁く稱へられても未だ曾つて眞實の說明を與へられた事はない。併し彼等は人生の生存に新しき第二の出立點を見出したものである。それは恰度良き土に植へられた樹木の美しい芽生のようなものである。即ち、血液の流れて居る生きた肉體の中に宿つた二人の靈魂は、僞りなき結合によつて聖き新なる生命に迄で成長する。其處には地上に於ける息子、娘の幸福なる未來がある。そして結婚と云ふ希望の船に乘つた若き男女の二人が、人生の航海に棹す時、そこには禁慾と云ふ嚴角や、肉慾と云ふ渦卷く鳴戸があるが、その間を無事に通・過ぎて彼等は未だ見ぬ人類の貴き約束に向つて急ぐ。そして、これが地から生れた二人の愛兒の新生の希望である。

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

市政と婦人

今迄、政治は政界と云ふ一廓の中に所謂政治屋と稱する一階級が、しかも、男子ばかりが關係するものであるかのようなかたちになつて居りましたが、併し、今や國民は、殊に、婦人は政治が、中にも、市政が如何に私共婦人と密接な關係にあるかと云ふことを益々明瞭に意識して來ました。

實に、都市生活は私共の家庭生活を擴大したものであります。私共親子夫婦の安住所が家であり、その家の安全地は都市であり、町であり村であるのです。

市役所及び區役所の仕事は市民の生活を保護し整理し、要するに、積極的並びに消極的に市民の幸福を計ろうとするものです。そして、その市民の生活は戸別的には主婦が主宰してゐるものです。

たとへば、私達が毎日爲さねばならぬ仕事、その仕事を爲すに付ての狀態、私達の住む家、私達の食料品、水燃料、燈火、子供を養育及び教育する狀態、衞生、保安、こう云ふ事柄に關して仕事をするのが市の仕事であり、そう云ふ事柄を直接扱つてゐるのが婦人です。

ですから、市の仕事の大部分は家庭の主婦の仕事を文字通りに補助するものです。要するに市政とは主婦の御手傳ひをするに過ぎないものなのです。

○

併し、今日まで、婦人と政治とは全然無關係であるかのように、男も女も誤まつて考へてゐたことは、我が日本ばかりでなく、世界各國同

じで男子よりも婦人が非常に優勢である米國でさへ、やはり、さうであつたのです。

米國の婦人參政權獲得運動に努力されたネーサン夫人が先年來朝された時に、その運動の經驗談をされ、いろ〳〵の種類の運動方法のうちで『無言の演說』と云ふのがあり、それは『婦人の天地は家庭にある』と云つて婦人の目を家庭内に閉ぢ込め、婦人の目を社會的に開かせまいとする、つまり、社會と沒交涉な生活を婦人に强ゆる弊風を打破しようとして、社會構造の模形を造つて、商店の飾り窓のような處へ飾つて公衆に見せたと云ふこと、その模形のうちには勿論一軒の家があつて、そして、その家の中には赤子が寢て居て、その家からは幾本も〳〵の針金が外部に引いてあつて、その針金は、電氣局に、ギヤス會社に、市役所に、衞生局に、市場に學校にと云ふ風に聯絡がとつてある、つまり、赤子に呑ませる牛乳を始めとして、家族の毎日の生活に無くてならない水、魚類、肉類、野菜、其の他溝掃除から芥箱の掃除に至るまで衞生局の監督が無ければならず、文部省の教育方針は直ちに我が子の教育に影響があるし、凡てさう云ふ風に今日の私共婦人の家庭生活は八重十文字に社會と相聯絡してゐるのであるから新らしき時代の良き妻、賢い母となつて、家庭を維持し、次の國民となる子供を健全に養教育し、家族の幸福を計るには社會上の知識も充分獲得してゐなければならず、社會施設に對しても發言權が無ければならないと云ふことを一目瞭然分るように公衆の目の前に突きつけて置いたと云ふことは一度書いて置きました。

要するに、各家庭の主婦が各役所の役人と手をつないで、相計り、相呼應するのでなければ市民の幸福を增進することは出來ないのです。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

○

そこで、我が國の婦人參政權運動は國議會への參加權と同時に市議會への參加權を要求して居ます。卽ち、衆議院議員の選擧權被選擧權と同時に市町村及び道府縣政への參加を要求して居ます。

今や婦人は、市政は家政の延長であることを自覺して居ります。そして、市政に對する要求の數々、不平のいくつかを持つてゐても、併し公民權なく、市政の内部に立ち入ることを禁じられてゐる婦人は、市政のうちの何處を突けば自分等の要求を聽いて貰へるか、不平を除去されるかも分明でないと云ふ實狀に置かれて居ります。

又、役人の方でも、今まで婦人を一人前の市民として考へる習慣を持つてゐないので、たま〳〵適確な婦人の要求を聞いても「女の云ふことなど」と云ふ態度で、それをものにしようとはしませんでした。

けれども、世は既でに普通選擧が施かれて、云ひかへれば、民主々義の精神が國民の半數（男子）にだけ徹底した今日、婦人の權利に對しても男子側が今迄のような態度を續けてゐることは出來なくなつてしまいました。

そして、婦人に公民權が與へられ、同時に、婦人が官吏になる道が開かれ、市政のうちに婦人の手が働くようになつた時に（縣政も道政も國政も同じです）この時こそ、市の仕事は文字通りに各家庭の主婦の御手傳ひが適確に出來るようになります。

家庭生活に婦人の心と手が無くてならないものであるように、都市生活にも婦人の心と手が必要であることは云ふまでもありません。

○

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

我が内務省を始めとして各府市縣に社會課なるものが設置されてありますように、歐米各國の各都市にも社會課が設置されてあつて、そして、此の新らしい部門は厚生事業や救濟事業を盛んに進めつゝあります。

今日の社會狀態に於て、此の仕事の必要は云ふまでもありません。そして各國の政府が此の仕事のために支出する金額は莫大でありますが併し、その割り合ひには効果が擧がつて居りません。と云ふのは此の事業に對する適材を得るのが困難だからです。

第一、社會事業家を養成する場所さへも無いと云ふのが世界各國共通の事實です。そして、大學のどの部門を出た人が最も相當であらうかなどゝ考へるのですが、併し、これもまことに心もとない話です。なぜなら、學門の或る部門に對しては秀でた才能を養はれてゐたからと云つて、社會事業に關しては何にも研究して居らず、又、敎へられて居りません。

そこで、止むを得ず、こそくな手段をとる。即ち、法律、經濟、行政、社會科學などを少しばかり講義して聽かせて、それで社會事業家の資格が出來たとは思はなくても、先づ、出來たことにすると云ふような行き方を何處でもとつてゐたのです。

そんなわけで、適當な知識と經驗が無いために社會事業は効果が擧がらないと云ふことが明らかになつて、今、英米では社會事業家養成と云ふことに非常な努力を拂ひつゝあります。

我が國に社會事業家養成の見るべきものが無いと云ふのは、識者の大いに考へなければならない處であります。我が國に於て、戸山敎授が帝國大學に社會學講座をもうけたのは既でに五十年以上も前のことだつたと云ふことでありま

すが、それでゐて今日に於ても猶帝大に於ける社會學講座は英米に比較して甚だ貧弱であるし又、社會學的の獨創的文献も出てゐないのですから、他は押して知るべしです。

社會の安寧秩序を保つには軍人と巡査が必要でありました。軍人は外敵と戰ふために、巡査は刑事上の罪人と戰ふために、社會事業家は道德上の罪人と戰ふために、今後益々必要になつて來ます。

社會が進歩すればする程、道德上の罪惡が增加します。社會事業家の必要は日に月に多くなつて行きます。社會事業家養成と云ふことに一日も早く力を致さなければなりません。

○

が、有力な社會事業家が養成されるのを待たずに、社會事業家が取扱はねばならないもの、即ち、不良少年少女の問題は益々大きく、貧乏問題は益々深刻になりつゝあります。その他、これに關聯する仕事は數限りなくあります。

そして、正式に養成された一人前の社會事業家が現れるまでのつなぎとしてとにかく此處に今幾人かの社會事業家が必要です。そして、差し當りの社會事業家に先づ必要な資格は親切な目と優しい手であります、そして、此の親切な目と優しい手は比較的には男子よりも母らしい感情に生きる婦人に多いようです。

そこで、私は、今、差し當つての社會事業家にはどし〳〵婦人を採用すること、社會局長の助役にも婦人を採用されることを望んでゐます社會事業の性質上、婦人で無ければ分らないものが澤山あることを信じますから。

社會事業に女性の特徴を利用されると同じように、市政のうちにも婦人を採用し、かくして市政の内外から婦人の心と手を働かせて、そし

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て、都市生活の向上を計りたいと思ひます。

　さうするために、もう一度申ますが、私共婦人の婦選獲得運動のうちには、市町村會議員並びに道府縣會議員の選擧權被選擧權を含めて居ります。

戀愛と道德

　戀愛のためには個人の幸福と社會の安寧とが屢々衝突する。と云ふのは、現在の義務觀念が社會に對する個人の無條件の犧牲を要求するからである。

　凡ての國家が健全なる父及母を必要とする、子孫を養敎育する爲には兩親の永久的結合が確實でなければならないと云ふことを私共は常に聽かされてゐる。そして、この要求に相反する個人の幸福は犧牲に供されねばならないとされてゐるのである。個人が拂はねばならぬその犧牲が個人に苦痛を與へる、個人の幸福を奪ふと云つてもそれが嚴しい結婚關係をゆるめねばならぬと云ふ理由にはなつてゐない、殊に、子供は家庭に於て最善の養敎育を受け得ると云ふことを兩親が承認してゐる以上は猶更そうである。そこで國家は結婚の形式を變更する必要を認めてゐないのである。

　もちろん、離婚を容易ならしめたからと云つて、それで、密接な關係に於て生活する人々の間に常に起る不調和が除去されるものではないのみならず、現在の結婚の形式が最高に發達した小數の男女の要求に相反するものであるとし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ても、もし、それが大多數のために有利であるならば私共は其れを受け容れなければならない私共が選まねばならないとすれば、小數に有利であつても大多數に有害である革新よりは、小數には苦痛であつても大多數に有利である現制度を取らなければならない。

現代に於て、離婚を容易ならしむることは徒らに分離を多くし、唯、結婚制度の紐を弛めるのみであるだろう。そしてその結果は家庭の破壞であり從つて國家の破壞である。故に戀愛から幸福を得ようとすることは國家の幸福に對する純然たる叛逆であるだろう。

歴史も人類學も又は自然も、個人主義的戀愛から幸福を享有し得ると云ふ理由を示してゐない。それ等の示す教訓はたゞ平靜なる自制と勇氣を以て義務を全ふすることになつてゐる。子供の出生と同時に、兩親は自身等の幸福を要求してならないのである。もし、兩親が自分等の幸福のみを要求することを止めないなら、自然はその法則に從つてそれ等の兩親の義務等閑に對する罰をその子供を通して與へるであろうと云ふことになつてゐる。

○

が、戀愛に影響を及ぼしてゐるばかりでなく凡ての他の人間關係に影響を及ぼしてゐる此の義務説の大きな誤謬は、個人が犧牲を拂はせられたゞけそれだけ社會が利益を受けてゐると云ふ觀念である。そして、この義務説を證明するために例證されてある證據も亦等しく誤りである。

歴史又は人類學は、異つた時代、異つた國民性、又は異つた氣候による異つた現象を説明してはいるが、併し、要するにそれ等は所謂人間性の作用に過ぎない。自然は人間に一方に於て

命ずるものを他の一方に於て禁ずる、即ち、一方に於て强請するものを他の一方に於て否定すると云ふ事實を歴史や人類學は示してゐるのである。

たとへば佛蘭西に於ける最も進歩した離婚反對論は「再婚は自然に反する」とか、「婦人は家庭以外に於ては眞の母になり得ない」とか、又は、「家庭は我々の理性に依るものではなく、社會學と生理學に立證された自然の法則に依るものだ。」と云ふようなことであるが、併し、離婚の難かしい結婚制度の陰影として――殊に佛蘭西に於て――姦通が盛んなのもやはり「自然の法則」であることは皮肉である。

既成結婚法に對する凡ゆる辯護は、ラッセルの「哀れむべき人々の外交術は眞理を僞り事實であるものを否定する」と云つた言葉を確證するものである。だが、かくの如き意見を聽く人

は、結婚に對する攻撃は、單純にして美しい田園詩を破壊しようとするものであるように考へるかも知れない。そこで、今、私共が考へなければならないことは、現在の結婚法から起る悲慘事と來るべき新結婚法から生れるかも知れない危險とを比較して見て何れがより以上に恐怖に價ひするかと云ふことである。そして、もし今日の社會狀態が非常に不純であり、非常な不幸をかもすものでないとしても、問題は「現在の結婚法が社會の要求を充分滿たして居るかどうか」と云ふのではなく、「種族を改善するためには如何にせば現在のよりもより有効な道德律が發見され得るか」と云ふことである。

「戀愛と結婚」の基礎的觀念は、個人が戀愛關係から最大限度の幸福を享有しなければならないと云ふのではなく、併し、個人の幸福が種族の改善のために役立つように、社會を整理しな

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ければならないと云ふのであつた。

○

一夫一婦、即ち、一生涯生活を共にしようとする兩性關係が唯一の道德的關係であると主張する人達は、偉大なる生命力を持つてゐて、立派な子孫を生み種族の改善に資することが出來るものを、さう云ふ道德標準のために、其の偉大なる生命力が無駄になつてゐる事實を認め得ないと云ふこと、並びに、如何なる倫理の原則も社會の惡要素の傳播を防ぎ得るものでないと云ふことを私は「戀愛と結婚」のうちに指摘して置いた。一生涯生活を共にしなければならないと云ふような調子の高い理想主義は中世紀の修道院に於けると同じ結果を生むであろう。そして、現在の社會狀態に於てはさう云ふ道德標準は——たとへ、進化の方向は明かに眞の戀愛の結合を最後の目標としてゐるし、靈肉の一致が結婚に於ても又、結婚外に於ても男女結合に於ける純潔の條件とされてゐるとは云へ——種族の改善を妨げることになる。

種族のためと云ふ立場から考へるならば、現在の法律上及び宗教上の道德の形式は、今日の最高に發達した性的意識に對し又その倫理に對して、確固たる論據を維持することは出來ない道德は道德それ自身の中に、及び、種族の改善となる狀態を支配する法則———科學が既に發見し或ひは不斷の努力をもつて發見しようとしてゐる法則——の中に新らしい標準を求めてゐる。尤も、これ等の法則及び意識は私が以前の著述に於て指摘して置いたように、時としては相衝突するかも知れない。

たとへば、性的理想主義者は戀愛が親としての唯一の條件なりと主張する。それに反して、優生學者は多くの立派な子供はその子供の父親

を愛さない母親から生れて居る事實を摘發して居る。又、性的理想主義者は戀愛からの結合を主張する。それに反して、優生學者は、貞節は不生産であり、それだけ種族に損失を與へてゐること、及び、不貞節は生産的であり種族に有益であつた事を示してゐる。

　更に、又、性的理想主義者は最も確乎たる戀愛の持主が最善な兩親であると云ひ、優生學者は、人類に取つて最も重要であるものは戀愛があるないに拘らず、結婚して居る居ないに拘らず、親としての最上な資格を備へた男女が結合すべきであると云ふ。その例として、結婚の條件としての戀愛を認めて居ないが、しかも、强健なる生存を長く續けた國々を優生學者は擧げて居る。それに對して性的理想主義者は、國家の維持と云ふことは一ツの事柄であり、たましいの向上と云ふことも、もう一ツの事柄であると主張する。實際、種族はその野鄙な性質によつても、生存出來れば高尚な性質によつても生存することができる。そして、種族は遺傳せられた野性と動物的性質を淘汰され、根絶されることに依つてのみ向上せられるのである。

○

　人生の凡ゆる他の問題はこの見地、即ち、種族の向上と云ふ見地から考へられなければならない。成り上りの富豪の子供は通則として强壯で美しくて健康であるであらうか？　もし、その反對であるとしたなら、たゞ、富を蓄積することにのみ汲々としてゐることは間接のみならず直接に種族の改善を妨げる行爲として非難されなければならない。

　戀愛生活には適さないが、親としての資格を持つた人達が獨身生活の淋しさを忍んでゐるよりも、結婚して立派な子孫を社會に送り出そう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

とし、より充實した生活をすることができるなら或ひは、又、或る男女が戀愛生活には適して居ても一人を一生涯愛することが出來ないとしたならば、そんなら、一人をのみ愛さねばならぬと云ふ理想家の標準はもはや彼等に宛てはめることは出來ないことになる。

こう云ふ理想は自分等の理想以外には如何なる理想をも認めることの出來ない青年達の間に於て特に造り上げられたものである、が、今日の「自由思想家」である青年達ですらも自由な赤裸々な心をもつて性の問題に當つてゐるとは思へない。そして、彼等は彼等のためには、唯、僅かに可能な道が二ツあるだけだと考へてゐるように思へる。即ち、慾望の奴隷となるか或ひは義務の奴隷となるか、と。

そして、その他の者に至つては「鐵鎖を求め埒内に止まること」をのみ希望して居る。彼等は人生の旅行の時間表を見るとか出帆日を見るとかクツクの旅行案内など眺めてひたすらにこの人生の旅行を安全ならしめようとする。かくの如き狀態にあつては、我々は、何處にも、自己の責任に立ち危險を冒して新しい道を開き新しい國を發見しようとする勇氣を見出すことはできない。

○

今の時代の人達は、所謂自稱「眞理探求者」であつて、戀愛生活そのものが最も矛盾した形式を取つて居ることを忘れ、この問題を取扱ふに當つて起つて來る不徹底及び矛盾を徒らに歎いて居る。彼等は、人生は生きたものであること、故に計り知りがたきものであること、固定したものではなく推測しがたき可能性をもつて成長するものであること、我々人間及び凡ゆる生物を神秘な道に沿ふて導いて行き、そして、我々

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の哲學に於ては夢想だにしなかつたものを示すのであると云ふことを知らないのであらうか。彼等は人生と云ふものは思ひもうけぬ運命や驚くべき經驗を蓄へて居て、我々が決して豫測し得ない我々人類の及び他の生物の美しい祕を藏するものであると云ふことを瞥見し得ないのであらうか。人生の美しさは、その計り知り得ない處に存し、人生の偉大さは共の不安のうちに高峰を仰いで攀ぢ登ろうとする處にあると云ふことを彼等は感じないのであらうか。

もし我々が前述の事實を認むるなら、如何に高尙であろうとも我々は一定の理想を定めることはできない。今日の理想は次の日には一般的となり、確立された理想もたちまち破壞されると云ふことを知るならば、無限な人生が一つの標準に從はしめられると云ふことは考へるだに恐ろしいことである。

理想主義はたゞ一つのものを表はしてゐるものゝように我々には認められる。即ち、各人は自己の理想を高く掲げて、その理想と生死を共にすることを辭さない――たとへ、それは、他人の目には無益な馬鹿らしきそして恥づべきことであつても――と云ふ意味を表はしてゐる。

理想主義者とは恰かも重い鐵槌を振り上げて義務觀念と云ふ石を道路に打ち込み道路を滑らかにし、他人の通行を便ならしめようとする者である。併し、その道路の兩側は無限に廣く、兩極より赤道に至るまで無數の習慣や、異つた氣候の生活をもつて覆はれてゐる。この多種多樣の人生に對し、唯一無二の道德的標準として生涯不變の戀愛を主張するのは考へても愚かしいことである。

だが、さう云ふ風に主張する人は彼と同種類の人達によつて規定された狹い範圍の外に彼の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

考へを出そうとしない。そして、こう云ふ理想家は、大多數に不可解である理想を絕對の力なりとして一般人類に强ゆるならばそれは取り除けらるべきものであると云ふことをも忘れて居る。

○

自分の精神から迸り出る信仰を宣言することゝそれと同じ精神狀態を他人に强ゆることゝは全然別の事柄である。人が自分の信仰を他人に數へることによつて又は自分自身の生活に自分の信仰をにじみ出させる時にはそれは自分と同じ精神狀態の擴張に資することが出來る。或ひは、又、他の人々が彼の影響を受けて、彼を精神修養の模範とし、又は、自己の生活の法則を彼に則とろうとするようになるであろう。併しもし彼が彼の信仰を、唯、主觀的に宣言するならば、彼の仕事はそれで終つてゐる。（エレンケー）

女流樂人の服裝

大隈記念講堂で久かたぶりに安藤幸子女史のヴァイオリンをきくことが出來たが、光線を巧みに使用した神々しくも美しいステージに女史の姿を見た瞬間に私は「あツ、これだな」と思つた。

と云ふのは、私はいつも女流音樂家のあのごて〳〵した裾模樣、金ピカの帶、紅白粉の市價を高からしむるであらうような厚化粧に少なからず氣持ちを惡くさせられてゐた。藝術家にして何故に其れが俗惡であると云ふ處に氣付かないだらう。やつぱり本當の藝術家では無いのかしらと云ふ疑ひさへ持つてゐた。

殊に大正十一年に歸朝中の三浦環女史と來たらむれを惡くさせられる服裝だつた。

四十を越した肉體をケバ〳〵しい振り袖で包んで、オカツパ頭の耳の上へ大きなまツ赤な薔薇だか牡丹だかの花をぶら下げて、妙にグニヤ〳〵しなを造つて、實にそれは二目とは見られない醜態だつた。藝術家と

云ふよりは、むしろ、所謂藝人と云ふ感じだつた。どんなに功妙に工夫した處が、四十女にはもう四十のかたちが歴然と現れてゐると云ふ處に氣付かない彼女が憐れにも滑稽だつた。

　それに引きかへ、安藤女史の服裝はうす茶がゝつた輕ろやかな袷衣にそれに似かよつた色の帶をひくゝ普通のおたいこに結んであつた。帶にも着物にも何にか模樣があるらしかつたが併し遠目からは凡てが一色にしか見へない程あつさりしたものだつた。顏には白粉氣はないらしく髮は普通の束髮。

　要するに、私共平凡な女と少しも變らない姿で、非凡な腕の冴へを見せられる處に藝術味が豐かであり、輝きがあり、威厳があるような氣がした。且つ、又、或る一つのことに生命までをも打ち込む程精進すれば、髮かたちや身なりにあれこれと心を使つてゐる暇はない筈だとも思ふ。

　思ふに、顏や服裝を飾るのは自分の藝術の足らない處を、云ひかへば、聽衆の耳の不滿足を目で補ぎなはせようとするのではないかしら。

　と考へるのは私の僻目か。

（本誌臨時定價表）

一冊	金十錢	送料五厘
六冊	前金五十五錢	（送料共）
十二冊	前金壹圓	（送料共）

昭和三年五月廿三日印刷納本
昭和三年六月一日發行

東京市四谷區南伊賀町四一
編輯兼發行人　山田嘉吉

東京市牛込區若松町五四
印刷人　大杉直次郎

東京市四谷區南伊賀町四一
發行所　婦人と新社會
振替東京五三六八八番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN